

情報連絡員報告を中心とした

県内の中小企業動向

平成25年7月期

情報連絡員50名 回答数50名

全体概要 【前月からの動き】

※下記の数字は情報連絡員からの回答数を表します。
 (「好転(上昇、増加)」、「不変」、「減少(悪化、低下)」の3択回答のうち、「不変」を除く「好転」又は「減少」の回答数)

前月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は5のまま変化なし。「減少した」業種は3から4に増加。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は9から12に減少。「減少した」業種は11から8に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は5から6に増加。「悪化した」業種は11から7に減少。

前年同月比

- ▶製造業では、売上高において「増加した」業種は4から2に減少。「減少した」業種は8から5に減少。
- ▶非製造業では、売上高において「増加した」業種は7から10に増加。「減少した」業種は10から8に減少。
- ▶業界の景況では、「好転した」業種は7から8に増加。「悪化した」業種は15から10に減少。

製造業

しようゆ製造

【県内全域】

米国産小麦に係る輸入停止(遺伝子組み換え)問題が発生したが、当組合は全部カナダ産小麦を使用しているため影響がなかった。

酒類製造

【県内全域】

猛暑の影響もあって清酒の出荷は低調。コストアップ分を価格への転嫁なしでは経営は厳しいが流通との交渉が難しい。

牛乳小売

【県内全域】

各メーカーは10月より牛乳1Lパック5円より10円値上げを決定。

製材

【木更津】

木材業界も厳しいが、更に円安の為コストが上昇。吸収に苦慮。

印刷

【県内全域】

7月の受注売上は6月とほぼ同じ。猛暑の影響や夏休みの需要を当て込んだ一部特需関連で稼動した模様。

業界動向としては、用紙の値上げを製紙各社が表明してほぼ3か月が経過するが、用紙の需要が盛り上がりならず、末端の卸商は様子見の状況が続いている。インキや洗浄剤等も値上げを表明したままで、実行までに至っていない模様。印刷機械や関連機械メーカー各社は、

ユーザーにアピールする為、盛んに自社のみで開催するプライベートルシューを催し、新たな時代へ向けた設備投資を訴えかけている。

電気鍍金

【県内全域】

本組合の7月の景況調査(前年同期比)で△12%となっている。

鉄工

【千葉】

全体景気の着実な回復の動きの中にあつて、中小製造業にとつて厳しさが続いているとの見方が多いが、当組合においても同様に大半が未だ回復実感が持てないとしている。先行き改善期待大きいですが、足元は各社とも厳しい。

機械部品製造

【野田】

掛け声だけで変化は見られない。

機械部品製造

【流山】

先月に続き、今月も仕事が増えている業種があり、景気が後退している感があります。強いです。

機械部品製造

【柏】

円安基調、中国の状況等により受注増になつては来ているが、根本的構造変化によるものではなく、限定的な動き(得意先都合)。

金属製品製造

【船橋】

計画通り、生産台数が客先より発注され、業績が改善傾向にある。

採石

【県内全域】

前月比減少。今後も前年並みの回復は厳しい。

【土砂採取】

前年同月比ではやや販売価格の上昇や、雇用人員の増加や景況が好転してきた地域がある。地域によっては、需要に対して供給が追いつかない状況。4月から行っている値上げ活動にも更に加速をかけて挑み値戻しも必要と思われるとの報告や、洗砂は需要に対応できているが、山砂の生産量が減少傾向で一部の需要に対応できていないとの報告もある。

今後の動向としては、景気の回復基調に伴い、需要も増えるものと予想している地域や、新たな新設備投資として洗砂プラントの計画の報告がある地域もあり、景気的好転が期待される。

非製造業

【総合卸売】

【千葉県・東京都】
【酒類卸】梅雨明けが例年より早く、ビール系飲料の出荷出足は昨年比やや増加。

【建築材料卸売】

【県内全域】
全国的には、消費税アップ前の駆け込み需要でマンション等盛況。工事量も回復。セメントは在庫減少。運送も逼迫している。千葉県

内は西部地区及び中央地区の一部の大型工事のみで、全般的には低調な需要のまま。放射能汚染や地盤液化化後遺症が尾を引いている。生コンは骨材及び輸送力不足を背景に値上浸透気配。秋口からセメント値上攻勢が予想されるが、セメント不足以前に急増需要に十分対応できない供給体制輸送ネットワークが問題。

【自動車解体】

【県内全域】
為替、スクラップ価格等に大きな変化なし。昨年よりは景況は良い状況が続いていると思われる。

【小売】

【茂原】
廃業転業が少々見られる。

【電気機器小売】

【県内全域】
6月末～7月初めは、猛暑でエアコンの動きが活発で品切れを起こした。その後は梅雨に戻り、エアコンの動きが止まった。このような天候は売上が落とすものになり、現在も売上が伸びないでいる。消費税関連では、まだ駆け込みには早すぎるので、しばらくは期待できない。太陽光発電は、まだ我々のところまで下りてこないが、楽しみはこれから。

株価、円安の変動が定まらず、メーカーも大型店も苦戦気味。流

れとしてはいい方向に向いていると思う。

【青果小売】

【千葉】
梅雨明けが早く、夏商品の動きが良い。ギフトシーズンとも重なり、高額商品も動きは良かった。しかし、電気代、ガソリン代等、経費関係でも比重が高いところの値上げのため、収益・資金繰りの面ではあまり良くない。

【中古車仕入・販売】

【県内全域】
タマ不足の状況は変わらず。全体の出品は減少傾向に伴い、成約率は上昇。平均単価もアップ、相場は高値で推移。輸出は依然好調が続いている。

【小売】

【東金】
前半は暑い夏でバーゲンも例年通りの推移であったが、後半の購買力が弱かった。全般的に客単価が若干低い。ファッション関連品は、後半から動きが止まってしまった。食品関係は生鮮類の価格が上がりつつしまし売上減となる。

【小売】

【野田】
サマーセールやイベントを頻繁に開催し、集客を図っているが、年間の来客数は減少の傾向にある。

【建設揚重】

【県内全域】
若干上昇傾向。8月の中旬頃ま

で継続しそう。

【遊覧船】

【鴨川】
夏休みに入ってから、客足が前年に比べても少なくなっている。

【一般廃棄物処理】

【千葉】
前月比、前年同月比ともに良い状態となった。短期的な好転状況なのか、来月の状況を見て判断したい。

【学習塾】

【県内全域】
夏季講習の受講状況は例年通り。

【ソフトウエア】

【県内全域】
前月と比較して上向き状況。このままの状況が続くかは不明。

【建設】

【県内全域】
当連合会加入組合員の受注は15,375百万円であった。これは、過去最高の大幅な増加。前月比で8,066百万と増加。前年同月比でも6,820百万の増加。全地域で増え、特に千葉地区は2,592百万の増加であった。要因として、市町村の受注が増えた。

【貨物運送】

【野田】
燃料の値上げ、輸入品を原材料とするメーカーからの運賃値下げ要求もある。

【輸出入】

【県内全域】
7月は前月比・前年同月比ともに上回った。